

 ボーイスカウト尾張東地区広報誌	★①スーパーカブ誕生 ②地区の活動報告 ③各団の活動報告 ④報告、世界ジャンボリー		第9号 平成27年10月1日発行 日本ボーイスカウト愛知連盟 尾張東地区 組織拡充委員会 広報部会 編集・発行 編集責任者 野村 典孝
--	--	--	--

◇「目標達成！ スーパーカブ」

春日井第8団 カブ隊
くま 齋藤 柚季

私は、カブに上進する時に、当時のビーバー隊長に「スーパーカブになってね！」と言われたことがきっかけで、目標をたてて、がんばってきました。

一番難しかったのは、気象学者です。一ヶ月間温度湿度風向をノートにまとめるのがめんどろで、むつかしかったです。一番楽しかったのは、アイススケートです。最初は転んでばかりで、いたかったけど、練習するうちにすべれるようになり、今では、お正月にいとことスケートに行くのが年間行事になりました。これからも、いろいろなことに挑戦してみんなの役に立てる人になりたいです。



◇「第3回尾張東地区ビーバースカウトラリー」

尾張旭第1団 VS隊長
林 由美子

桜の蕾がふくらみかけた3月22日、春日井市落合公園で元気なビーバースカウトたちと多くのお友達が「わくわくワールド」を楽し

みました。地区ローバースやベンチャースカウトの楽しい進行は、みんなの憧れの的となりました。地区内一丸となり、楽しい一日となりました。



◇「地区合同くま集会」を行いました

春日井第4団

カブ隊長 伊藤 克敏

平成27年6月7日（日）にスカウト・指導者総勢86名が集まり、地区内16の有志団によるくまスカウトを対象とした合同くま集会を犬山野外活動センターで開催しました。

各隊指導者間による事前の打ち合わせを重ね、当日は各隊混成組を編成したスカウトが、国旗儀礼やなわ結びなど6つの基本訓練ポイントを回りました。

隊の枠を超えた交流がスカウトだけでなく指導者間でも行えたのが大きな成果でした。



◇「チームスポーツで団結だ！」

春日井第2団 カブ隊
常山 莉奈

私は、4月26日「チームスポーツで団結だ！」の集会で緑の募金とチームスポーツ大会に参加しました。

緑の募金は昨年より多ぜいの人が募金してくれました。おとしよりの方が多ぜい募金してくれました。千円も入れてくれる人もいてびっくりしました。地球の緑のために募金してくれる人が多くて、うれしかったです。私も地球の為になることをしたいと思いました。地球が緑いっぱいになるとうれしいです。

午後からは、チームスポーツ大会に参加しました。一番強かったのは大人チームです。大人チームは手かげんなしで子どもみたいにはりきって、しんけんでした。

1組は1勝しかできなかったけど、子どもから大人まで年れいせいげんなしで、しんけんに行ったのでとても楽しかったんです。



◇「一泊野営」

春日井第2団 カブ隊
丸谷 涼寧

6月20日～21日に一泊野営をしました。私の組には8人の体けん者がきてくれました。

6月だったので「かえるのおまつり」というイベントをたいちょう長たちがやってくれました。お祭りの屋台のような「かえるつり」「かえるすくい」「わなげ」「お面作り」が

ありました。私はその中でわなげが一番楽しかったです。

その後ごはんを食べました。屋台風の玉せんや焼きそば、けんちん汁、チョコバナナがあって、ゲームの得点を一番高く取ったチームが優勝でそのチームはチョコバナナがスペシャルでポテトチップスと、とんがりコーンがついていました。私も食べたかったです。

その後ピロティーにもどって体けんの子とわかれて、もう一度食事場所にもどって組集会をし、組長会をやってねました。

雨音や雷の音であまりねむれませんでした。次の日の朝はふったりやんだりのくり返しでした。セレモニーをしてゲームをしました。

計測と、キムスとロープ結びと連めい歌歌合戦で勝ったのでよかったです。楽しかったです。



◇「タウンハイクと消防署見学に行って」

春日井第2団 カブ隊
川本 誠士

ぼくたちは、隊集会で防災について学ぶために、自分たちの住む町の消火せんや消火器、ひなん場所などを確認しながら、ハイキングを行いました。ハイキングの途中で防災にかんするクイズも行いました。

ぼくたちの組にはちょっと問題が難しかったようで、みんななやみました。けど、おかげでもっと防災について学ぶ事ができました。

昼ごはんには、非常食のカンパンやごはん、シチューなどを食べました。味はあんまりおいしくはなかったけど、シチューが50年持つと聞いてびっくりしました。その後消防

署に行きました。そこでははじめに、防火服を着せてもらいました。ぼくにとってはとても重くて暑く感じました。その後に入って防災のビデオを見ました。内容は災害の時にどのようにしたらいいかでした。

ぼくはそれを見て、じしんはいつくるか分からないので気をつけようと思いました。

最後に消防車などの説明を聞きました。ぼくはいろいろな説明を聞いて、どの車にも特別なやくわりがあると知りました。

今回の隊集会を通して、ぼくは防災の事を詳しく知ることができたので良かったです。



◇「国際交流しました」

春日井第8団

CS隊長 野村 典孝

この夏、日本で世界ジャンボリーが開催されますが、我がカブ隊も将来の世界ジャンボリーへの参加を目指して、春日井在住のスペインのフォアンさん、フィリピンのマビックさん、フィンランドのロッサさんの協力を得て4月24日の隊集会では国際交流、親切の科目に挑戦しました。日本語は禁止、英語、身振り等を使って課題をクリアしながら、市内を案内し彼らを目的地に招待するプログラムです。はじめは、どう話せばよいかわからず、戸惑っていましたが、身振りや紙に絵を描い

て伝えたりの工夫で、スカウトたちが一生懸命に、自分を出している姿は、素晴らしいものがありました。「方法はいくらでもある。実行することが重要」大切なことを学んだスカウト諸君 おめでとう。



後日（7月4日）、プログラムに協力していただいたお礼に、相撲部屋見学とちゃんこ鍋のプログラムに招待しました。ちゃんこ鍋料理は初めてだそうです。最後は七夕飾りにも参加していただきました。



◇「山登り」

日進第2団

カブ隊 鮫島 丈人

ぼくは、八月十二～十五日まで長期舎営に行きました。やったことは草木染め、登山、川遊び、キャンプファイヤーなどです。一番、いんしょうに残ったものは、登山でした。登山は一四七〇メートルを登りました。ぼくは家にいるときは、ほとんど運動せず、家でゲームをしたりしていたので、登山が大きな山になりました。そして真ん中にくるころには息があがっていました。

そこからジグザグの道で登り坂だったのとても大変でした。しかも、そこを、通りぬけると、今度は急な階段でした。この山の頂上につくと雲海が広がっていました。頂上ではおにぎりを三つ食べました。とても涼しかったです。帰るときは道が楽でした。とちゅうでとてもつかれていて、帰るときはもんくすらも言えませんでした。入り口に出るとすぐ車で帰りました。部屋に帰ると水をがぶ飲みしました。とてもつかれたけど、登頂したときが、すっきりして、うれしかったです。



◇「いろいろな虫を見つけたよ」

江南第3団
カブ隊 日比野哉士

7月18日～20日までカブスカウトのキャンプありました。もくてきの場所についたら、組でバンガローをきめました。19日になってそとに出たら、ゴホンツノカブトラしきオスとメスを見つけました。ミヤマクワガタのメスとコクワガタのメスも見つけました。うれしかったです。でも、さいごは山へにがしてあげました。家へ帰ってからしらべてみたら、ゴホンツノカブトラしき虫は、「ダイコクコガネ」というフンコロガシのなかまだったことがわかりました。



◇「曽爾村へキャンプに行って」

ボーイ隊 つばめ班
石塚 元

ぼくは、7月24日から26日までの2泊3日でキャンプに行きました。ボーイ隊は二日目の朝まで野外キャンプをしました。5人用のテントを借りたのですが、僕たち3人がやっと寝られるような、ちっちゃいテントでした。4人いたら、誰かが外で寝ることになるよね、と誰かが言ったので、みんなで大笑いしました。夕食はカレーライスだったので、準備をして食材を食堂にとりに行って、戻ってくると、カラスがビニール袋に入れてあったお米を器用に破って、食べていました。夕食は、ライスのない本当にカレーだけになるにかと、思い、悲しくなりましたがVS隊長がお米を調達してくれていたので、おいしいカレーライスを食べることができました。夜、3人で食材の管理について反省会をしました。夜のプログラムでナイトハイクをしました。ここはとても静かで、真っ暗でこわいくらいでした。でも空には本当にたくさんの星が見え、とてもきれいでした。営火では進行役をしました。3人でどうしたら、楽しくなるだろうか、いろいろ考えました。初めは、みんなの前に出て、話すのがはずかしかったけれども、みんなが笑うのを見ると、うれしくなりました。

去年の夏は、カブスカウトでしたが、上進してボーイとなり、今回デンコーチとして参加でき、一歩前進できたかな、と思いました。



◇「23WSJ (ISTとして) の報告」

春日井4団

副団委員長 青木 正士

私はスカウトとは異なったIST (インターナショナル・サービス・チーム) の立場での

感想を記載する。私はオンサイトプログラム担当だった。I S Tの居住区はきらら浜の南端、オンサイトプログラムは北端。毎朝5時半起床、6時までに朝食をとり、徒歩で30分あるいて出勤、作業は9時から17時まで、作業終了後また30分歩いて帰途についた。途中12時～14時まで休憩があった。テントには電気のない環境なので日の出に起床20時には眠りにつくほとんど鳥類とおなじ生活だった。

生活環境としては衣食住のうち、

「衣」は開会式やアーリーナーショー、閉会式は制服だったがその他は自由だった。でもI S TのチーフとI Cカードは必携。「食」はスタッフレストランで朝晩（ランチは朝支給される）の食事。「住」は業者の立ててくれた広々とした大型マーキーテントにベッドを持ち込んでの生活。温水シャワーにウオシュレットの無い洋式水洗トイレ、普通のB S キャンプでは考えられないインフラでの生活だった。これに電気と般若湯があれば最高 だったが……。オンサイトの会議やプログラムの進行は全て英語、私は1月からラジオ基礎英語1～3を半年間聴いて勉強。なんとかヒアリングは出来るようになったが、ボキャブラリーが少ないので相手に喋るには単語が出てこないのが苦労した。今回のジャンボリーで印象に残ったことが三つあった。

《その1》生まれて初めて外人ふたりと話し、その人達と3時間しゃべりまくったことだ。初日にスカウトショップが混雑すると思ったので、初日のショップ開店前に行くのと既に長大な行列。待っている間に外人と英会話の練習をしようと思い、隣の外人のオバはん思い切って話しかけてみた。やはり上手く会話になるわけがない、その時ちょうど私の後ろにいた外人の兄ちゃんが、「私は通訳のI S Tですが、日本語があまりわかりません、練習させてください」と言って割り込んできた。ラッキー……。イギリスからのペニーさんと米国のニックさんで、ペニーさんは女医でドクターI S T、ニックさんは弁護士で通訳I S T。それぞれ家族の話や英国と米国の会話や習慣の違い、それぞれの国のスカウト事情などを話して楽しい4時間を過ごした。おかげで英語アレルギーがなくなった。

《その2》 2週間の滞在期間中で初日だけは台風の影響で見えなかった日の出と夕日が二日目から毎日見えたことです。普段は気にしたこともなかった太陽の表情が毎日朝晩変わることに感動しました。最後の日の朝の太陽はくっきりと白く見え、その日の閉会式の夕日は真っ赤で夕焼けは象徴的な事柄だった。

《その3》 私はサイエンスプログラムの「マイクロ水力発電」を担当していたが、スカウト2名リーダー1名が派遣された国ジンバブエのスカウトの事だ。スカウトの一人は自宅では電気が無い生活だということで、自宅で発電をしたいと2時間ほどノートに一生懸命書き込んで私に発電の原理を聞いてきた、でも電磁誘導など技術的な単語が出てこず英語で説明できず四苦八苦している所に大阪のスカウトが来て「ここでは何がもらえまっか〜?」「ここでは何もプレゼントはありません」「ほな、ほかに行こか〜」サイエンスサイトでは国内の有名な企業もたくさん展示していて、財力に任せてお土産攻勢。多くのスカウトがお土産目当てだった。私はジンバブエのスカウトには何とか発電の原理を理解してもらおうと紙に絵や構造を書いて説明し納得してもらったが、その時お国柄の違いを感じた。

《奇跡》参加者3万4千人の中で開会当日に知り合ったペニーさんとニックさんとあの広い会場で再会出来た事、ペニーさんとは中日の休日に、特に象徴的なのはもう一度会いたいと思ったニックさんと最後の閉会式に会ったことで、「貴方と逢ったのは開会日と閉会日!!」「イッ ミラクル」「アメリカに来たら連絡して」「また日本に来てください」「ハブ ア ナイストリップ」と言ってチーフとメールアドレスを交換した。

皆さんもWSJに行く機会があれば是非参加してほしい何か起きるよ!!!。





◇「第23回世界ボーイスカウトジャンボリー大会に参加して」

春日井8団 木村 元胤

私は世界ジャンボリーにはじめて行くことが出来ました。カブスカウトのときから憧れていました。今回、通訳という形で原隊（春日井第8団）とは違う団の人達の（あま市尾張南派遣0607隊）中に入ることになりました。最初は友達になれるか心配だったけど、みんなとすぐうちとけられるようになりました。初めてのキャンプ場はすごく広い場所でびっくりしました。着いて2日目になるといろいろな国の人たちが集まって来て、すごかったです。開会式、アリーナショーでは、ゲストライブが盛り上がり、海外のスカウトにも大好評でした。カナダに留学中という経験を生かし、海外のスカウトと日本のスカウトとのコミュニケーション（会話）が少しでも図れる手伝いをするのが私の役割でしたが、みんな、言葉以外のコミュニケーションで、結構楽しく海外のスカウトと交流していたことは、とても素晴らしいことだと感じました。夜には交流会でゲーム、ワッペン交換などで友達作りをしました。また違う夜にはアメリカ、イギリスの人達と交換夕食会をしました。すごく楽しかったです。僕たちはプログラムで広島に行き原爆ドーム、広島平和資料館を見学しました。展示資料の一つ一つを見るにつけて、言葉が出ないくらいの悲しい気持ちになりました。今回の大会のテーマは（和 a Spirit of Unity）です。世界中のスカウトが

平和と友好に思い繋がれば、素晴らしいと思いました。10日間という長い日程には不安もありましたが、一人でも多くのスカウトとの名刺交換をしたり、色々なプログラムをこなして、貴重な体験や経験を尾張南派遣隊0607隊の仲間と良い関係を作ることができました。あつという間の素晴らしい世界ジャンボリーでした。私は4年後次の世界ジャンボリーにも参加したいと思っています。人種、宗教、習慣、言葉そして膚の色が自分と同じでない様々なスカウトが集まってきます。しかし、違っていることを見つけるよりも、共通点を見つけることが、どれほど楽しいか、価値があるか、世界ジャンボリーは教えてくれます。自分にプラスとなるので、4年後に向けてカナダでの一人暮らしを頑張ろうと思っています。



◇「23WSJをふりかえって」

長久手第1団 BS 隊長

（日本派遣団0609隊副長） 梶谷 光平

私にとって今回の23WSJは3回目のジャンボリーですが、15NJではスカウトとして、16NJではISTとしての参加でしたので、指導者としての参加は今回が初めて、世界ジャンボリーへの参加も今回が初めてと、初めてづくしのジャンボリーでした。面接でスカウトと出会い、思いを聞き、このスカウトたちならジャンボリーも大成功だな、と思ったのもつかの間、第1回の集会では自団のスカウトとばかりしゃべったり、スマホをいじったり、みんなと打ち解けようという姿は見られず、大丈夫かなあと思ったものです。今回の

運営は、班、委員会を中心に行われました。委員会は、隊交歓（他隊との交流について）と、工作物（隊の象徴であるゲートや野営で必要な工作物の作成）に分かれ、何度も集会や会議を重ね、準備を行いました。また、班では、外国隊と 0609 隊のスカウトをトレードし、夕食作りから共に行う夕食会での料理の企画・練習、夕食会ののちに行われる交流の時間の出し物等の練習を行いました。班や委員会の集会、幾度かの隊集会を重ねるうちに、スカウトも新たな仲間と徐々に打ち解け、笑顔も多く見られるようになりました。

ジャンボリー出発時には台風が山口県に接近しており、スカウトも指導者も不安を抱いてバスに乗り込みましたが、現地で朝食を摂り、会場入りすると太陽が！とりあえずの心配はなくなり、元気良く設営に取り組みました。16NJ では雨天が続いたこともあり、スカウトたちの荒天対策も万全なものでしたが、期間中は 1 日も雨が降ることはありませんでした。スカウトの日ごろの行いの良さが発揮されたものと信じています。今回は 44 年ぶりに日本が開催地になりましたが、会場に一歩足を踏み入るとそこは外国でした。多くのスカウトが英語の飛び交う雰囲気混乱し、引っ込み思案になったものですが、途中から単語を並べて会話をしたり、身振り手振りでコミュニケーションを取る技術を会得し、臆することなく交流を図ることができたように思います。スカウトたちは、会場内に 100 を超える国の人が存在する普通ではありえないシュチュエーションを最大限楽しむことができたのではないのでしょうか。今回のジャンボリーで、スカウトは一回りもふた回りも成長できたと感じます。原隊においてもジャンボリーの経験を生かし、精力的な活動を展開することを期待します。



最後になりましたが、保護者の皆さま、原隊の指導者さま、大会を運営してくださった皆さま、本当にありがとうございました。スカウトの行く道に幸あれ！

弥栄！弥栄！弥栄！

◇「23WSJ の思い出」

江南第三団

ボーイ隊 長屋 琉我

僕達江南 3 団は尾張南地区、尾張西地区との混成隊の 0607 隊として派遣されました。

きらら浜には日本ジャンボリーで一度来たことがあるはずなのに、まるで違う景色に驚きました。各国の派遣隊により一日にして、三万人の大きな街が築かれ、その街には日本人よりも多くの外国隊のスカウトやリーダーが歩いていて、聞こえてくる言葉は英語ばかりという慣れない環境は初めての経験で、興奮と驚きと少しの不安を感じました。しかし僕の不安は 0607 隊のメンバーや交流した海外のスカウト達のおかげで、あっという間に消えてしまい、14 日間はとても充実した忘れられない時間になりました。設営中だというのにギターを弾きながら歌っているスカウト、ワッペンを交換をしているスカウトなど、常識に捉われない、しかしジャンボリーを思い切り楽しもうとしている海外のスカウト達を見て僕も思い切り楽しんで帰ろうと決めました。もうここまで来たら積極的にコミュニケーションをとって楽しむのが一番だ！と思いどんどん知っている単語を使い話し掛けていきました。海外のスカウト達はとてもフレンドリーと一緒に野球をしたり、ゲームをしたりと楽しむ事ができました。また、各プログラムでは海外のスカウトと交流をする機会が何度もありました。中でも一番印象に残っているのは各隊の各班が小学校を訪問するプログラムです。向かいのテントサイトのイギリス隊のスカウトとペアを組んで校内を回りながら日本の文化を体験するというものです。

僕が日本人という事もあり「これはなに？」などと説明を求められ、何とか伝えようと必死に単語を探して説明をしましたが、上手く説明できない事がとてももどかしく、もっと

英語が話せたら、日本の文化をもっと知ってもらえたのにと悔しい気持ちになりました。

次の日の夜は、イギリス隊の食事会に招かれ夕食をいただきました。そこではコーラをソースと言って鶏肉にかけて食べました。とても驚き、合わないのではないかなと思い食べ始めましたが、意外とおいしくて皆たくさん食べていました。この様な経験から、今回のテーマである「和」の精神を尊び、お互いの文化や環境を伝え合い認め合う事、共通の目的を持ち同じ時間を過ごす中で、経験を共有し思い出を残す、それが笑顔を増やし争いを減らし世界平和へと繋がる第一歩なのではないかとも思えました。多くの出会い、多くの経験、多くの感動をくれた世界ジャンボリー。僕をジャンボリーに参加させて下さった江南 3 団、尾張東の皆さん、そして家族に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。この経験を自分の中に留めておくだけでなく、どんどん周りへ発信していこうと思います。そして今回一緒に活動できた 0607 隊のメンバー、海外のスカウトと今後もずっと繋がっていきたいと思います。 次に



私が、第 23 回世界ジャンボリーに参加して感じたことは、英語が話せなくても伝えたい気持ちがあれば伝わるということがわかりました。もう一つは、二週間という長いキャンプ生活を一緒に過ごした仲間たちと協力して活動していく楽しさを知ったことです。まず初めに英語が話せなくても伝えられると思ったのにはいくつかの体験をしたからです。私は、アンゴラの国の人にタープが建てられないから手伝ってほしいと言われました。英語があまり得意ではなかったのですがちゃんと協力して建てられるかとても不安でしたが、自分

が今までに学んだ英語やジェスチャーを使ってコミュニケーションをとりながら建てることができました。また、カナダの人と交流したとき、かたことの英語で話したのにもかかわらず伝えることができました。そのとき、私は、英語が話せないからあきらめるのではなく、自分から積極的に話しかけて伝える努力をすることが大切だと思いました。さらに、スイスの人と交流したとき、自分から積極的に話しかけて交流したら「英語を話すのが上手だね。」と、言われました。これを聞いたときお世辞でも英語を使うということに自信を持つことができました。これから、たくさん勉強して、実用的にもっと英語が使えるようにしたいという気持ちになりました。



二週間のキャンプ生活で共にした仲間たちとはプログラムやサイトでの生活などのときに協力しあって活動をしていました。プログラムでは、炎天下の中での活動が多かったため体調不良になる人がでてきました。そのときは、近くにいた人たちが寄り添って看病したり声をかけてあげたりしていました。また、サイトでの生活では、サイトの設営やご飯の用意、ゴミ捨て等のことをみんなで分担して行いました。協力して毎日の生活をよりよくしていく大切さを学びました。私は、第 23 回世界ジャンボリーに参加して参加前よりもさまざまな面で成長することができたと思います。初対面の人と話すときのコミュニケーション力や、長い間キャンプをする野営スキルの向上等で成長できたと思いました。また、世界ジャンボリーの訓練が始まってから活動

が大変なこともあり精神的につらいときもありましたが、参加してよかったと思いました。世界ジャンボリーでお世話になった派遣団の指導者の方々、後方支援をしていただいた団委員長をはじめとする団関係者の方々に感謝し、今回した貴重な経験を活かしながら活動をしていこうと思います。これからも誓いとおきてを頭に入れて第24回世界ジャンボリーで後方支援ができるようにしていきたいと思います。



◇「23WSJ」に行って」

江南第1団
ボーイ隊 山本 圭

7月26日午後9:00、僕の所属する0608隊は小牧から山口に向かって出発しました。到着して3日目に開会式でした。そこで、初めて3万4千人という参加人数の多さに驚き、世界スカウトジャンボリーという実感がわきました。プログラムが始まりました。僕の、班での役割は安全係で、毎日班員らに注意をしました。ジャンボリー最初のプログラムは「Water」でした。救命活動をしました。背泳の要領で浮くことが少し難しかったです。「Nature」で行った秋吉台は日本でも有数の鍾乳洞で、とてもきれいですでした。フードフェスティバルでは、世界各国の食べ物を食べました。文化が食から伝わってきたし、外国の人たちとコミュニケーションができました。「Community」で僕たちの班は、山口県の中学校に行きました。そこで案内などをするとき、英語を使うし、大変でした。でも外国人に喜んでもらえてうれしかったです。ピースプログラムで、今年

は、原子爆弾投下から70周年と重なって特別でした。外国人が平和について興味をもってもらったことが印象に残りました。

スカウト交流のとき、おもにワッペンを交換しました。僕は、ノルウェー人とハッピーとブルゾンを交換しました。少し心残りになったのは、自分の英語力がなさすぎたことです。「中学二年だからいっかなー」って少し思ってたけど、英語力があればもっとやりとりができて、楽しかったかなと思いました。



16NJとはちがい、日本の中だけで、全部英語で頭の中がごちゃごちゃになりました。そして外国人だらけで、人種もばらばらで、平和で常にテンションが高くて、異国の地でした。そして大事にいたる事故もなく、安全な街でした。二週間とても楽しめました。

◇「あっという間だった世界ジャンボリー」

江南第1団 ボーイ隊
駒田 道哉

僕は、世界ジャンボリーに参加して、海外のスカウトとの交流や、物の交換などが一番楽しかったです。外国の文化や外国人自身のことなど、いろいろお話ができてとてもうれしかったです。



二週間のキャンプは、初めはながいなと思っていたけど、いざ過ぎるとあっという間だったなと実感しました。たくさんの思い出ができてとてもよかったです。

◇「ジャンボリーの旅を続けよう」

日本派遣団 0608 隊長

(小牧第1団 VS 隊長) 古木 啓介

スカウトなら誰もが参加をあこがれる世界スカウトジャンボリーに参加できたことにまず心から感謝します。当隊のスカウト達はよく準備をし、このジャンボリーをとっても楽しみました。体調不良者が1人も出ずに期間を過ごせたことが何よりの証拠です。最初は外国人におどおどしていたのが自分から積極的に話しかけていくようになり、仲間を思いやり、助け合って乗り越えていくようになり…とだんだんと成長し、変わっていく姿を見ることができました。また、国際宇宙ステーションとのアマチュア無線交信、世界スカウト委員長や日本派遣団長との記念写真、文部科学副大臣や愛知連盟長よりサイト訪問・激励を受ける等他の参加者には経験できないことを経験させてあげることができたことは隊長として責務が少しは果たせたかな、と感じています。スカウト達にはスカウト達の楽しみがありますが、指導者には指導者の楽しみがあります。他の活動で知り合いになった海外の指導者との再会や、近隣のキャンプサイトの指導者との交流・モノの貸し借り・食材に書かれた日本語の解説…といろいろなことがありました。スカウト仲間として国を超えて「おまえが〇〇してくれたからその気持ちに応えないと!」「ここで会えた記念にこれをあげるよ!」と多くの親切、多くの特別な贈り物をもらいました。「共通点はスカウト」というだけですぐに仲良くなれ、お互い助け合い、楽しめる仲間がいるということを身をもって知ることができました。また海外からこの大会の運営のために来ている指導者が大会の成功やスカウトのよい経験のために、猛暑で自分も大変なのに、笑顔で一生懸命業務をこなしている姿をみて、驚きとともに、感謝と「自分も負けてられない」ととてもよい刺激を受けました。いろいろなことを知り、

体験できたジャンボリーでしたが、大切なことは、私を含め、参加したスカウト一人ひとりがこの経験を伝えていくことだと思っています。そう、ここで終わりではなく、始まりなのです。

そう、これらはこれからの君のチャレンジです。地球規模の村で生活した素晴らしい経験をもとに、帰宅してからもスカウトとして1つにつながり続けてほしい。お互いに距離的には離れていても、君たちが育てた絆を持ち続けてほしい。

君たちにこのジャンボリーの旅をさらに続けてほしい。君たちがここで作った友人と連絡を取り続けてほしい。そして、君たちが暮らす社会でこれから出会う人々に接する時に、ここでの経験を使ってほしい。

君たちのはなしを分かち合ってください。私たちは、簡単に様々なコミュニケーションが出来る時代に生きています。scout.org, Facebook, YouTube, Instagram, Twitter…などを使って君がしている良いことを他の人に伝えてください。そうすれば皆がお互いに学びあうことが出来ます。

23WSJは偉大な冒険でした。私たちの、使命である平和のメッセンジャーであり続け、地球市民として活発に生活し続けましょう。共に、スカウトはより良い世界を作り出すことが出来ます。

(閉会式での世界スカウト機構事務総長のメッセージの一部)



◇「23WSJに参加して」

江南3団

0607 隊 副長 椎葉 浩志

今回のジャンボリーには副長としての参加する事になりました。それも前半だけと言うことで後半奉仕の副長にどう引き継ぐかも考慮しながらの参加となりました。尾張南派遣隊 0607 隊は尾張南地区が3班、尾張東と尾張西地区で1班の隊編成で始まりました。

生活面では 16NJ より大幅に改善されておりシャワーやトイレも多く設置され世界ジャンボリーは違うと感動しました。16NJ では大雨による浸水があり大変な目に合いましたが今大会は会場に着いたら山口に着いた朝降った後は1度も雨が降らず朝晩はすずしく快適でした。隊長は非常に寒かったようでカップを着て寝ていました。僕自身は英語がほとんど出来なかったため現地に行ってしまうと不安が一杯でしたが、なるようになれと開き直り外国人を見たら積極的に声をかけるように心がけました。到着したらやはり集合写真という事で思い切って通り掛かった外国人の男性指導者に Please Photo shoot.(写真撮ってください)と頼んでみました。なんとか判ってもらえ快く何枚も撮影してくれました。

僕の最初の仕事はサブキャンプ本部に隊備品を取りに行くように隊長から指示されスカウトと一緒にサブキャンプ本部に向かいました。担当はイングランドのケイティさんで早くて何を言っているのか1割くらいしか理解できず困りましたがスカウトと協力して何とか任務を果たす事ができたと思ってサイトに戻ったら大事件が発生、なんとテントが大幅に足りないんです。早速サブキャンプ本部に行き日本人スタッフに相談し何とか用意していただき事なきを得ました。原因は箱の中のテント収納個数の勘違いでした。テント設営をすませたら今回のジャンボリーの最大の目的である国際交流が始まりました。サイトの隣の空き地でベースボールをやったら飛込みで何人かの外国人スカウトと一緒に参加してくれ思いっきり楽しみました。思ったよりルールを知らないスカウトが多く説明しながらのゲームになりましたがビックリしたのは黒人スカウトの身体能力の高さでベースボール

を一度も体験したことがなくバッターの構えはおかしいのに打つとジャストミートだったことです。翌日はモーニングゲームで「だるまさんが転んだ」をやったら外国人の飛び入り参加があり何度もアンコールもあったりして交流が深まりました。その後もキャンプサイトの改善に取り組み日本を意識したゲート(門)作りを毎日に行いました。「ししおどし」「テルテル坊主」「門松」「日陰作り：寒冷紗使用」「洗濯物干し場」を作り、日本の伝統文化紹介として「抹茶体験」「風船つり」「折り紙体験」を行いました。外国人との交流では名刺・ワッペン交換及びサインをTシャツに書いたり書いてもらったりしたり、ギター演奏会を行ったりして楽しみました。



スカウト・指導者はこの貴重な体験を生かし今後の活動に生かし語学を磨き次回の第24回世界ジャンボリー(アメリカ・カナダ・メキシコ合同開催)向かいたいと思います。

◇「23WSJ解隊式を終えて」

23WSJ 0607 隊 ペんぎん班

江南第3団 ボーイ隊 長屋 琉我

昨日は23WSJの解隊式を行いました。約二週間を共に過ごした仲間とも今日でお別れです。スクリーンに映されていた動画を見ながら「最初はこうだったよね」とか「この時にさ」など皆、思い出話をしていました。解隊式を終えると向かいの焼肉屋さんで最後の食事会をしました。もう本当に楽しくてこれから約一年、来年の2TCまで会えないと思うとすごく寂しいです。最初、尾張南のスカウトの皆と一緒にジャンボリーに参加すると言われた時とても不安で怖くて仕方なかったけど訓練を重ねていくうちに南と西と東の間の壁

がなくなっていった最後、このような最高の隊になることができて良かったです！このジャンボリーで出会った仲間達との絆を絶やすことなく今後もスカウト活動を行っていったら良いと思います。ボーイスカウトでなければこのような経験をするのは絶対にできないので、ボーイスカウトを続けさせてくれた家族には感謝の気持ちで一杯です！山口県の皆さん！最高のおもてなしをありがとうございました！！そして、各隊の指導者の方々、本当にありがとうございました！この経験と思い出は一生忘れることはありません！



◇「23WSJ」体験記

春日井第4団 ベンチャー隊
柴田 雅弥

皆さんはWSJという大会について、どう思いですか？僕も最初こそ日本ジャンボリーと同じ様なものだろうと思っていました。

ですが、実際行ってみると本当に日本じゃないような雰囲気でした。僕らの周りを歩いているのは外国人、外国人、外国人。初日こそ日本人ばかりでしたが、2日目からはホントに外国人ばかりでした。外国人の方々は見目もですが、みんなしっかりしてて、日本人と違って母国の言葉とは違う英語をしっかりと話していました。僕は行ってから、もっとやる事をやっておけばよかったなと思いました。その中でも、外国スカウトとの交流会の準備で特に思いました。他の国のスカウトは年齢性別関係なく、いろんな国のゲームやソングを出し合って楽しく交流していたのに、僕らは相手の言うことにイエスやノーなどしか言えなくて、あまりゲームなどを楽しめずにいました。ですが、相手の国のスカウトたちは歳が近いとは思えないようなくらい気を

遣ってくれて、僕らも一緒に楽しめるようにしてくれました。共用語が英語と言う事もあり、世界ジャンボリーは少し不安もありますが、行ってみさえすれば何のそのでした。

他の国のスカウトとの友情、他の国の文化をたくさん学ぶことが出来ました。終わってから思えば、たくさんの事を経験させていただけました。このような機会をいただけたこと、ジャンボリーへ参加させていただけたこと、14日間という長い期間支えていただいたリーダー、次長、班員、参加させていただけた保護者、自団隊長副長にはとても感謝しています。



◇「23WSJ」に行って感じたこと

春日井第4団 ボーイ隊
鈴木 創偉

僕はこの23回世界ジャンボリーで感じたことをこの場を借りてお話します。2週間の間僕は山口まで行って世界ジャンボリーに行きました。ボーイに入ってジャンボリーに行くのが夢でこの夢がかなってとてもうれしかった。もちろん、外国人とも話したかったし、交換品も交換したかったし、世界のスカウトを一度この目で見てみたかった。でも、一番ジャンボリーでやりたかったことは自分の力を試してみたかった。自分の実力がどれくらいだったのか向こうへ行って確かめたかったんです。少しずつ英語研修や隊集会、班集会、委員会などの事前訓練をしているうちに徐々に出発日近づいてきて僕は緊張するのかなと思ったんですが、まったく緊張せずにその日を迎えてしまいました。出発式を終えてやっと「自分はジャンボリーに行くんだー」と思いました。現地のきらら浜について2、3日

間はジャンボリーはそうたいしたことないな
と思いました。プログラムが始まり、やっと
気分が高揚しました。でも自分の実力はそう
たいして発揮できなかったし、実力はまだま
だだと感じた。そこで僕はジャンボリーの厳
しさを知った。なので僕はもっと技術を上げ、
技能をあげることに、年下に指示していくの
を、残りの1年間やっていきたいと思ひます。
その中でもやはり指示力が足りないと思ひた。
ジャンボリーの班長や年上の人たちを見ると
指示のやり方が僕と明らかに違ひた。仕事を
班員に任せ班員を信頼するそのやり方が僕に
は足りなかつたと思ひた。話が堅いですがな
ぜこんなに話が堅いといひますとこれから何
かしらの形でジャンボリーに行きたいと思っ
てる子もいるかもしれません。でも僕はただ
楽しみたい、遊びたい、とか遊び目的でジャン
ボリーに行くのは止めてほしいと僕は思ひ
ます。何のために行くのか考えられる人だけ
が行くところだと思ひますがそれを踏まえて
遊んだり、楽しんだり、学んだりしてくださ
い。楽しむのがジャンボリーなんです。3年目
が何言っただよとおもうかもしれないけど
本当にそうなんです。ただこの話はいろんな
人に読んでもらいたいのですがこの話はこれ
からジャンボリーに行くであろうカブやボー
イの初級、二級向けに書きました。思ひ出話
は自分の隊の過去に行つた人や今回行つた人
に聞くのが一番いいでしょう。ジャンボリー
は涙出るくらい楽しかつたし面白かつた絶対
忘れられない思ひ出になつた。この楽しみを
行つてない子たちにも感じてほしい。



◇「全力」

小牧1団 BS 隊
松本 帆駆登

僕はこのジャンボリーに行くことはとても
不安だつた。なぜならば、愛知県内の全く知
らない人たちと、何を言っているかわからな
い海外の人たちと生活しなければいけないか
らです。でも大会が始まると、そんな事忘れ
てジャンボリーを楽しんでいる自分がそこに
いました。気がつけば長いはずの2週間が、
あっと言う間に終わっていました。行く前ま
で海外の人に自分から話しかける事はできな
かつたが、今の自分はなんとか話す事ができ
る。この成長はとても素晴らしいと思ひが、
ただ一つ後悔している事は英語の勉強をして
おけばよかつたと思ひています。でも自分の
持てる力を全力で出したので、まあいいやと
思ひています。だからこの先ジャンボリーで
の経験を活かして何事にも全力で取り組みた
いです。

◇「思ひ出に残つた事」

日進2団 BS 隊
荒木 良季

自分はこの23WSJにて、一番の思ひ出に
残つた事は、外国人との交流です。僕は、英
語が苦手で、知っている単語は数少なく、言
葉のキャッチボールができませんでした。だ
がしかし、身振り手振りでも外国人とコミュニ
ケーションしていると、「私も、日本語喋れな
いから」と言ってくれました。何て素晴らしい
事なんだ！！と思ひました。それがジャン
ボリーの中で一番思ひ出に残っています。

それ以外でも、0618隊のラスカル班は、
とても最高でした。全員仲良くできて、良か
つたです。仲良くできたのは全て班長のおか
げです。僕もいつかジャンボリーの班長にな
って、今のラスカル班の班長よりも優しくし
ていきたいです。

今回のジャンボリーに出れたのも、団の方、
親、色々な人の協力があつてのジャンボリー
だと思ひます。今回の思ひ出や、学んだ事は
ジャンボリーが終わつても試したいです。

◇「23WSJに参加して」

江南1団

0618 隊 副長 石川 圭祐

副長としての参加。自分に与えられた使命は隊長の方針の下、隊内を円滑に進めていく事。0618 隊は5 地区から構成されており、指導者及びスカウトの考え方、指導法、スキルも様々であった。3月の結隊式、ほとんどのスカウトが顔も見た事もない者同士4つの班に分けられ、コミュニケーションをとり始める。自ら班長を申し出た者もいれば、欠席裁判で班長にさせられた者もいる。そんな出会いから何度かの集会を重ね、「班」を構築していく。しっかりとした班長の下、スムーズに打ち解けた班もあれば、足りない所をお互い補い、助け合って活動していった班もある。班長と次長で考え方が違いトラブルになった班もあれば、班の雰囲気にも馴染めず涙した班員もいる。日本人同士、愛知県の中でも違う地域で育った5地区のスカウト達、いわんや外国をや。と思っていたが、外国スカウトとの交流には非常に積極的に活動するスカウトが多くいた。それはおそらくは、壁を作らずに馴染んでいったスカウト達。慣れない英語を駆使しての会話。身振り手振りで必死に伝えようと、相手も必死にわかろうとしてくれる。露店を開いてのグッズの交換。ワッペン、チーフリングを交換してきては嬉しそうに報告してくれるスカウトもいれば、外国サイトに乗り込んで行って、欲しい制服、チーフ、カバンなどをゲットしてくる勇敢なスカウトもいた。アメリカ、スウェーデン、バングラデシュとの夕食交流会を開く中で、外国の文化に触れ、文化の違いについて考えさせられた時もあった。そんな様々な外国スカウトとの関わりの中で、文化の違い、考え方の違いを受け入れ、認められるようになり、それは良いスパイスとなり自分の班へと流れ込んでいく。少しずつ班内で会話が増えていった。相手の話を聞けるようになっていった。班のことを考えて行動できるようになっていった。笑顔が増えていった。

「Creating a better world」大会期間中何度も聞いた言葉だ。より良き世界を目指して、

新しく出会った仲間や23WSJで得た様々な経験を活かして、0618 隊のスカウト達が歩んでいてくれると心から信じている。

【お知らせ】

愛知連盟スケジュール

第2回あいちビーバー・カブラリー

開催日時：平成25年10月25日（日）9：30～15：30

場所：愛・地球博記念公園「モリコロパーク」

テーマ「みんなあつまれ！ 花と緑とスカウトのワ！」

参加者 愛知連盟所属のビーバースカウトとカブスカウト、及び同年代の子どもたちならびに指導者、保護者等

（同年代の子どもたちを誘って参加していただくことを期待します）

●RCJフォーラム2015

期 間 平成25年10月10日（土）～10月12日（月）
2泊3日間

場 所 静岡県立富士山麓山の村

●成27年度CJ Kプロジェクト・バングラデシュ派遣

期間 平成28年2月13日～2月22日

10日間（予定）

場所 バングラデシュ人民共和国 シャリアプール

【編集後記】

先日92歳で亡くなられた元ボーイ隊長を偲ぶ会で出席者の一人から40年以上前のウッドバッジ修了証を見せてもらいました。制服を脱いで30年以上が経ち、スカウト活動からは全く身を引いていますが、宝物の様にとても大切に保管されていました。制服を脱いでも、やっぱりスカウトであったことを大切にしておられたと感じました。その日は、50年以上前のカブスカウト、ボーイスカウトに戻って、キャンプの話、食事の話に花が咲きました。みなさん、細かいところまで本当に良く覚えているんですね。驚きでした。

**スカウトは、恐れずいろいろな事にチャレンジし、いろいろな体験をすることができる
その積み重ねが自分自身の人生を必ず豊かにする。**

自分もそうだった、と出席者の一人は熱く語っていました。

（典）